練馬区立南町小学校

南町小だより

つよく　かしこく　あたたかく

平成２７年　２月２８日

校　長　　福 田　俊 彦

自分の大切さとともに友達の大切さを

校　長　　福田　俊彦

通りかかった花屋の店先に桃の花を見ることができました。弥生の月、雨の中、寒さを感じながらも、春はもうそこまでという思いがしました。平成２６年度の残りも僅かとなり、進学、進級に向けた心構えもできつつあります。日頃より、保護者の皆様、地域の皆様には、「みんなの子供をみんなではぐくむ」のもと、ご尽力をいただけましたことに感謝を申し上げます。

さて、２月は今年度３回目の「ふれあい月間」でした。「ふれあい月間」は、自分の大切さとともに友達の大切さも考えた行動や言葉遣いをすることを重点とする期間です。学校の学習の中でも、生活の中でも、その場面は多くあります。この南町小だよりを書いている時間に校庭では、１年生が手作りの凧を揚げています。校庭を走り回る子供のエネルギーは凄いです。子供の気付きは活動に工夫をもたらしています。他の子供から学んでいます。そこには、子供たちの多様なかかわりが見られます。

ある子供の凧がくるりと回り他の子供にぶつかりました。「あ、ごめん。」という声が聞こえてきました。よく揚がる友達の凧を借りている子供がいます。貸し借りをするときに、その場の状況に合った言葉のやりとりがあったのでしょう。先生の凧が高く揚がると、その傍らで「すごい。」と感嘆の声を揚げています。そして、聞いています。「どうやったらいいの。」４５分間の授業の中での子供相互のやりとりから多くの学びをしていることが伝わってくるようでした。

６年生は、最上級生としてこの１年間、南町小学校の学校生活を創ってきました。どのような学校にしたいか。みんなとどのように生活したいか。この思いは言動として現れ、下学年に伝わっています。ある休み時間に校長室に訪ねてきた１年生は、６年生を送る会の練習について話をしてくれました。その中で６年生と別れることを強く感じつつあったのでしょう。「泣いちゃうかもしれない。」４月の入学から６年生とともに活動したこと、６年生の言葉などが、思い起こされてきたのでしょう。上学年の姿が下学年のあこがれとなることは、南町小学校としてめざしているところです。

平成２６年度の学校生活でも、このような場面を大切にしてきました。日々の授業の中での、生活の中での子供の活動の積み重ねが、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める子供」をはぐくむことにつながっています。そして、これからも継続することで本物になってきます。その質が高まっていきます。南町小学校では、今年度までの教育活動から明らかになったことを踏まえ、平成２７年度も、全教育活動を通して、互いの大切さを認め合う子供をはぐくむことに尽力をしてまいります。来年度も「みんなの子供をみんなではぐくむ」ことへのご理解とご協力をお願いいたします。